

地方分與稅分與金特別會計法案理由書

地方分與稅、法ニ依ル地方分與稅分與金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歳入歳出ト區分シ經理スルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大藏省

大日本帝國政府

內務省及大藏省所管 地方分與稅分與金

		歲入		十五年 度豫定額	備考
		款	目		
第一 款 租	一 地 租			七六五六五六四	四円
				二五九九〇三九九	
				二五九九〇三九九	
第二 款 營業稅	一 地 租			五〇五七五二四五	
				二〇〇七八三九一	
				三〇四九六八五四	
第二 款 一般會計ヨリ受入			二七七三五五六二〇		
			二七七三五五六二〇		
第一 款 一般會計ヨリ受入				二七七三五五六二〇	

大 日 本 帝 國 政 府

第一 款		第二 款		第三 款	
項 目	地方分與稅分與金	項 目	地方分與稅分與金	項 目	雜 收 入
一	還付稅分與金	一	還付稅分與金	一	利子收入
二	配付稅分與金	二	配付稅分與金	合 計	合 計
	三五三、九一七、一一八		三五三、九一七、一一八		三五三、九七一、二六四
	七六、五六一、四九八		七六、五六一、四九八		五〇、〇〇〇
	二七七、三五五六二〇		二七七、三五五六二〇		五〇、〇〇〇
十五年度豫定額					
備 考					

大日本帝國政府

	第一款 第一豫備金	第三款 豫備金	一 租稅拂戾金	第二款 拂戾金
歲出				
合計	五〇〇〇	五〇〇〇	四一四六	四一四六
三				
五				
三				
九				
七				
一				
二				
六				
四				

地方分與稅分與金特別會計法案

地方分與稅分與金特別會計法

第一條 地方分與稅分與金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スベシ

第二條 本會計ニ於テハ地租、家屋稅及營業稅ノ收入、配布稅分與ノ爲ノ一般會計ヨリノ受入金、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ還付稅及配付稅ノ分與金、借入金ノ償還金及利子其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ノ歲出額ハ其ノ歲入及積立金ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ毎年度ニ於ケル配付稅ノ分與額ヲ地方分與稅法第六條第一項ニ規定スル額(前年度ニ於ケル配布稅ノ分與額ノ百分ノ九十ガ之ヨリ大

ナルトキハ其ノ額ニ達セシムルニ付一般會計ヨリノ受入金及積立金ノ合計額ヨリ借入金ノ償還金ヲ控除シタル殘額ヲ以テシテハ之ニ不足スル金額ヲ限度トス

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第六條 本會計ニ於テ決算上剩餘ヲ生ジタルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第七條 本會計ノ積立金ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スベシ

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ

提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年度、同十六年度及同十七年度ニ於テ還付税分與金ノ支拂上現金ニ不足アルトキハ
本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スベシ

地方分與稅分與金特別會計法案理由書

地方分與稅法ニ依ル地方分與稅分與金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分シ經理スルノ
要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十五年二月 日

稲田内閣官房總務課長

正誤通知

一、地方分與稅法案印刷物中

二六頁 三行 「第二十三條」ハ「第二十條」ノ誤

二九頁 七行 「大都市配付額」ハ「大都市配付稅」ノ誤

一、地方分與稅分與金特別會計法案印刷物中

一頁 末三行 「配布稅」ハ「配付稅」ノ誤

内閣

地方分與稅分與金特別會計法案

地方分與稅分與金特別會計法

第一條 地方分與稅分與金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分スベシ

第二條 本會計ニ於テハ地租、家屋稅及營業稅ノ收入、配布稅分與^付爲ノ一般會計ヨリノ受入金、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ還付稅及配付稅ノ分與金、借入金ノ償還金及利子其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ノ歲出額ハ其ノ歲入及積立金ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ借入ヲ爲スコトヲ得ル金額ハ毎年度ニ於ケル配付稅ノ分與額ヲ地方分與稅法第六條第一項ニ規定スル額(前年度ニ於ケル配布稅^付ノ分與額ノ百分ノ九十ガ之ヨリ大

ナルトキハ其ノ額ニ達セシムルニ付一般會計ヨリノ受入金及積立金ノ合計額ヨリ借入金
二

ノ償還金ヲ控除シタル殘額ヲ以テシテハ之ニ不足スル金額ヲ限度トス

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第六條 本會計ニ於テ決算上剩餘ヲ生ジタルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第七條 本會計ノ積立金ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スベシ

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歲入歲出豫算ヲ調製シ歲入歲出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ

提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ

得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

昭和十五年度、同十六年度及同十七年度ニ於テ還付税分與金ノ支拂上現金ニ不足アルトキハ
本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ償還スベシ

地方分與稅分與金特別會計法案理由書

地方分與稅法ニ依ル地方分與稅分與金ノ會計ハ之ヲ特別トシ一般ノ歲入歲出ト區分シ經理スルノ
要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大甲第八八號

起

昭和十五年三月三日

閣議決定 昭和十五年三月二十六日施行

昭十五年三月三十日 公布

內閣總理大臣

近衛

內閣書記官長

近衛

內閣書記官

外務大臣

齋藤

陸軍大臣

板垣

文部大臣

有田

遞信大臣

廣田

厚生大臣

廣田

內務大臣

高橋

海軍大臣

米谷

農林大臣

高橋

鐵道大臣

高橋

大藏大臣

高橋

司法大臣

高橋

商工大臣

高橋

拓務大臣

高橋

別紙兩院ノ議決ヲ經タル損害保險國營再保險特別會計法案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

限濫兩訓上諭案

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル損害保險國

營再保險特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

昭和十五年三月二十九日

内閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

法律第七十二號

(上奏ノ通)

内閣

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル
損害保險國營再保險特
別會計法案ノ裁可ヲ奏請
ス

昭和十五年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽



損害保險國營再保險特別會計法

第一條 損害保險國營再保險法ニ依ル損害保險國營再保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置

シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ再保險料、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ再保險金、再保險料ノ還付金、借入金ノ償還金及利息、一時借入金ノ利子、事業取扱費、保險會社ヘノ交付金其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘ヲ生ズルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第四條 本會計ニ於テ再保險金及再保險料ノ還付金ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第七條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

本會計ハ當分ノ内特ニ必要アル場合ニ限り第四條ノ規定ニ依ル借入金ニ代ヘ一般會計ヨリ受
入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ニ付テハ後日本會計ヨリ同額ヲ一般會計ニ繰入ルベシ

損害保險國營再保險特別會
計法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十五年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽



内閣總理大臣米内光政殿



損害保險國營再保險特別會計法案
帝國議會、提出、件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十五年三月十三日

內閣總理大臣米內光政



大甲八八

三月十三日裁可

昭和十五年 三月十三日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣 

法制局長官 

外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣

厚生大臣



内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



別紙大藏商工兩大臣請議損害保險國營再

保險特別會計法案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案ノ通

損害保險國營再保險特別會計法案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十五年 三月十四日 衆

内閣總理大臣

大藏大臣

商工大臣

主任者主計局調査課長前田大藏書

5.3113
務 庶

損害保險國營再保險法ニ依リ經營スル損害保險國營再保險事業ニ關ス
歲入歲出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置スルノ必要アル
ヲ以テ右ニ關スル法律案ヲ第七十五回帝國議會ニ提出セントス
仍テ別紙法律案竝ニ同理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十五年三月十三日

大藏大臣 櫻 内 幸 雄



商工大臣 藤 原 銀 次 郎



大 蔵 省

大 蔵 省

內閣總理大臣 米 內 光 政 殿

大
藏
省

規格 B. 5 (14. 2 內用納)

損害保險國營再保險特別會計法

第一條 損害保險國營再保險法ニ依ル損害保險國營再保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ再保險料、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ再保險金、再保險料ノ還付金、借入金ノ償還金及利息、一時借入金ノ利息、事業取扱費、保險會社ヘノ交付金其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘ヲ生ズルトキハ之ヲ積立ツベシ
本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第四條 本會計ニ於テ再保險金及再保險料ノ還付金ヲ支辨スル爲必要

アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第七條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之ヲ翌

年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

本會計ハ當分ノ内特ニ必要アル場合ニ限り第四條ノ規定ニ依ル借入金ニ代ヘ一般會計ヨリ受入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ニ付テハ後日本會計ヨリ同額ヲ一般會計ニ繰入ルベシ

損害保險國營再保險特別會計法案理由書

損害保險國營再保險法ニ依リ經營スル損害保險國營再保險事業ニ關スル歲入歲出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置スルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大藏省

損害保險國營再保險特別會計法案

損害保險國營再保險特別會計法

第一條 損害保險國營再保險法ニ依ル損害保險國營再保險事業ヲ經營スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ於テハ再保險料、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ再保險金、再保險料ノ還付金、借入金ノ償還金及利息、一時借入金ノ利息、事業取扱費、保險會社ヘノ交付金其ノ他ノ諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第三條 本會計ニ於テ決算上剩餘ヲ生ズルトキハ之ヲ積立ツベシ
本會計ノ歲計ニ不足アルトキハ積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第四條 本會計ニ於テ再保險金及再保險料ノ還付金ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得

第五條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第七條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第八條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第九條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル事業費ノ支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

本會計ハ當分ノ内特ニ必要アル場合ニ限り第四條ノ規定ニ依ル借入金ニ代ヘ一般會計ヨリ受
入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ受入レタル金額ニ付テハ後日本會計ヨリ同額ヲ一般會計ニ繰入ルベシ

損害保險國營再保險特別會計法案理由書

損害保險國營再保險法ニ依リ經營スル損害保險國營再保險事業ニ關スル歲入歲出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置スルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大甲第 八七號

案 起
昭和十五年三月三十日

閣議 昭和十五年三月三十日
決定 昭和十五年三月三十日
施行 昭和十五年三月三十日
裁可 昭和十五年三月三十日

昭 和 十 五 年 三 月 三 十 日
公 布

內閣總理大臣 齋藤

內閣書記官長 渡邊

內閣書記官 佐藤

外務大臣 齋藤

陸軍大臣 齋藤

文部大臣 齋藤

遞信大臣 齋藤

厚生大臣 齋藤

內務大臣 齋藤

海軍大臣 齋藤

農林大臣 齋藤

鐵道大臣 齋藤

大藏大臣 齋藤

司法大臣 齋藤

商工大臣 齋藤

拓務大臣 齋藤

別紙兩院ノ議決ヲ經タル木炭需給調節
特別會計法案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

限遊兩洲上議諭案

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル木炭需給

調節特別會計法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

昭和十五年三月二十九日

内閣總理大臣

大藏大臣

農林大臣

法律第七十三號

(上奏ノ通)

内閣

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル
木炭需給調節特別會計法
案ノ裁可ヲ奏請ス

昭和十五年三月二十六日

貴族院議長伯爵松平賴吉



木炭需給調節特別會計法

第一條 木炭ノ需給ノ調節ノ爲政府ノ行フ木炭ノ買入、賣渡又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 本會計ニ据置運轉資本ヲ置キ其ノ金額ハ百萬圓トシ一般會計ヨリ繰入ルルモノトス

第三條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金額ハ七百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テハ木炭ノ賣渡代金、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ木炭ノ買入代金、木炭ノ買入賣渡貯藏及運搬ニ關スル諸費、借入金ノ償還金及利息、一時借入金ノ利息其ノ他諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第五條 本會計ノ歳出額ハ其ノ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第八條 本會計ニ於テ決算上過剩ヲ生ジタルトキハ之ヲ翌年度ノ歳入ニ繰入ルベシ

第九條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

木炭需給調節特別會計法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十五年三月二十六日

貴族院議長伯爵松平賴壽



内閣總理大臣米内光政殿



木炭需給調節特別會計法案帝國
議會、提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十五年三月十三日

內閣總理大臣米內光政



月
月

大甲 八七

三月十三日

昭和十五年三月十三日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣 五

法制局長官



外務大臣

五

陸軍大臣

五

文部大臣

五

逓信大臣



厚生大臣

五

内務大臣

五

海軍大臣

五

農林大臣

五

鐵道大臣

五

大藏大臣

五

司法大臣

五

商工大臣

五

拓務大臣

五

別紙大藏農林兩大臣請議木炭需給
調節特別會計法案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

法制局

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

木炭需給調節特別會計法案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

昭和十五年 三月十三日 衆

内閣總理大臣

大藏大臣

農林大臣

承知

大藏省

主任者主計局調査課長前田大藏書記官

3.13
3.13

木炭ノ需給ノ調節ノ爲政府ニ於テ行フ木炭ノ買入、賣渡又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置スルノ必要アルヲ以テ右ニ關スル法律案ヲ第七十五回帝國議會ニ提出セントス

仍テ別紙法律案竝ニ同理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十五年三月十二日

大藏大臣 櫻内幸

雄



大甲八七

大藏省

内閣總理大臣 米内光政 殿

農林大臣 島田俊雄



大藏省

木炭需給調節特別會計法

第一條 木炭ノ需給ノ調節ノ爲政ハ木炭ノ買入、賣渡又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 本會計ニ据置運轉資本ヲ置キ其ノ金額ハ百萬圓トシ一般會計ヨリ繰入ルルモノトス

第三條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金額ハ七百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テハ木炭ノ賣渡代金、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ木炭ノ買入代金、木炭ノ買入賣渡貯藏及運搬ニ關スル

諸費、借入金ノ償還金及利子、一時借入金ノ利子其ノ他諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第五條 本會計ノ歳出額ハ其ノ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部に預入ルベシ

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第八條 本會計ニ於テ決算上過剩ヲ生ジタルトキハ之ヲ翌年度ノ歳入ニ繰入ルベシ

大藏省

第九條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算

ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

木炭需給調節特別會計法案理由書

木炭ノ需給ノ調節ノ爲政府ノ、行フ木炭ノ買入、賣渡又ハ貯藏ニ關
スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置スルノ
要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大藏省

參照

米穀需給調節特別會計法

大正十年四月
法律第三十七號

(總理大藏、農
商務大臣副署)

- 第一條 米穀ノ數量又ハ市價ノ調節ノ爲ニスル米穀ノ買入、賣渡、交換、加工、貯藏又ハ貸付ニ關スル一切ノ歲入歲出ハ之ナ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ立テシム
- 第二條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得
- 第三條 米穀ノ買入代價ハ外國ヨリ直接ニ買入ルル場合ヲ除ク外一年內ニ償還スヘキ證券ヲ以テ其ノ額面金額ニ依リ之ヲ交付ス
前項ノ證券ハ無記名證券トス
- 第一項ノ規定ニ依リ交付スル爲政府ハ證券ヲ發行スルコトヲ得
- 第四條 日本銀行ハ前條ノ證券ノ所持人ノ請求ニ依リ政府ノ定ムル歩合ヲ以テ其ノ證券ノ割引ヲ爲スヘシ
- 第四條ノ二 第三條ノ規定ニ依リ發行スル證券ノ借換ノ爲政府ハ借入ヲ爲シ又ハ一年內ニ償還スヘキ證券ヲ發行スルコトヲ得其ノ借換ニ付亦同シ
- 第四條ノ三 本會計ノ負擔ニ屬スル證券及借入金ノ額ハ通シテ最高八億五千萬圓トス
- 第五條 本會計ノ負擔ニ屬スル證券及借入金ノ償還金及利子並證券ノ發行及償還ニ關スル諸費ノ支出ニ必要ナル金額ハ毎年度國債整理基金特別會計ニ之ヲ繰入ルヘシ
- 第六條 本會計ハ借入金、米穀賣渡代金及附屬雜收入ヲ以テ歲入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡交換加工貯藏貸付及運搬ニ關スル諸費、證券及借入金ノ償還金及利子其ノ他諸費ヲ以テ歲出トス
- 第六條ノ二 米穀ノ數量又ハ市價ノ變動ニ基ク買入數量ノ增加其ノ他避クベカラザル事由ニ因リ生ジタル豫算ノ不足ヲ補フ爲歲出豫算ニ豫備費ヲ設クルコトヲ得



第七條 本會計ニ於テ支拂上餘裕アルトキハ大藏省預金部ニ之ヲ預入ルヘシ

第八條 本會計ノ決算上剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ之ヲ繰入ルヘシ

本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第九條 政府ハ毎年度本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調整シ歳入歳出ノ總豫算ト

共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正十年度ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和九年法律第二十九號)

本法ハ昭和九年度ヨリ之ヲ施行ス

政府ハ當分ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ第四條ノ三ニ定ムル證券及借入金ノ額ヲ通ズル最高金額ヲ三億圓ノ範圍内ニ於テ増額スルコトヲ得

參照

臺灣米穀移出管理特別會計法

昭和十四年三月
法律第三十五號

(總理、拓務大臣
藏大臣副署)



臺灣米穀移出管理特別會計法

第一條 臺灣總督府ニ於テ米穀ノ移出ヲ管理スル爲特別會計ヲ設置シ其ノ歲入ヲ以テ其ノ歲出ニ充ツ

第二條 本會計ニ据置運轉資本ヲ置キ其ノ金額ハ五百萬圓トシ漸次臺灣總督府特別會計ヨリ繰入ルルモノトス

第三條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金額ハ二千五百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テハ米穀ノ賣渡代金、積立金ヨリ生ズル收入、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歲入トシ米穀ノ買入代金、米穀ノ買入賣渡加工貯藏及運搬ニ關スル諸費、借入金ノ償還金及利子、一時借入金ノ利子其ノ他諸費ヲ以テ其ノ歲出トス

第五條 米穀ノ買入數量ノ増加其ノ他避クベカラザル事由ニ因リ生ジタル豫算ノ不足ヲ補フ爲歲出豫算ニ豫備費ヲ設クルコトヲ得

第六條 本會計ノ歲出額ハ其ノ實際ノ歲入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第八條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第九條 本會計ニ於テ決算上過剩ヲ生ジタルトキハ之ヲ積立ツベシ

本會計ニ於テ決算上不足ヲ生ジタルトキハ前項ノ規定ニ依ル積立金ヨリ之ヲ補足スベシ

第十條 本會計ノ積立金ハ之ヲ臺灣ニ於ケル農業ノ調整、開發及助長ノ爲必要ナル費途ニ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ本會計ノ積立金ヲ使用セントスルトキハ其ノ金額ヲ臺灣總督府特別會計ノ歳入ニ繰入レ臺灣總督府特別會計ノ歳出トシテ拂出スベシ

第十一條 本會計ノ積立金ハ國債ヲ以テ保有シ又ハ大藏省預金部ニ預入レ之ヲ運用スルコトヲ得

第十二條 本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第十三條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ之ヲ提出スベシ

第十四條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ昭和十四年度ヨリ之ヲ施行ス

法 制 局

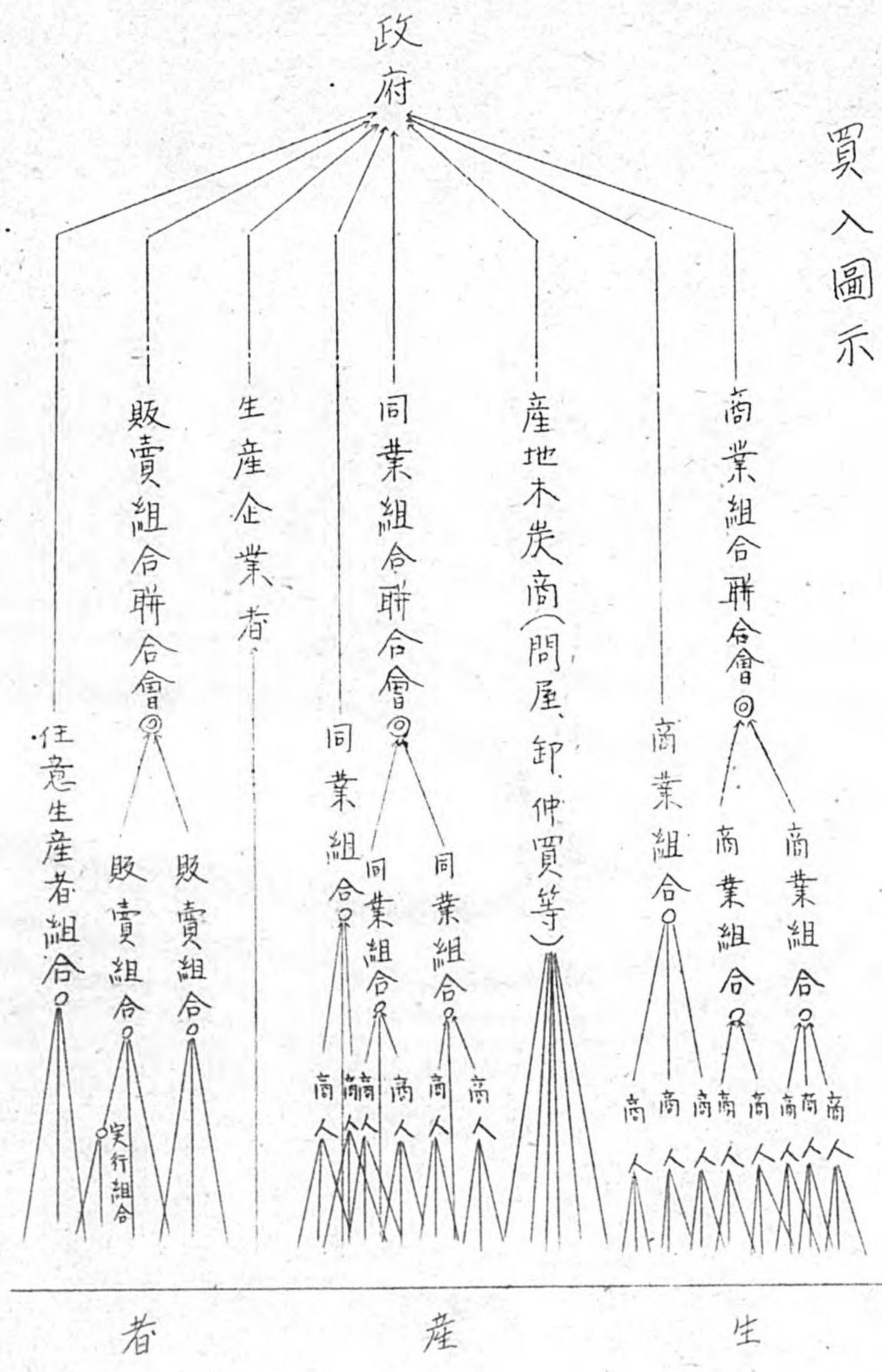


本特別會計ニ依リ木炭ノ需給ノ調節ノ爲政府ノ行フ木炭ノ買入、賣渡
及貯藏ニ關スル業務ノ實施ニ付テハ商人系統ニ依ル機構ヲモ十分尊重
シ且ツ之ヲ利用スルコトトシ尙農林商工兩省間ノ協議其ノ他ノ細目ニ
付テハ此ノ際之ヲ決定セズ今後ノ研究ニ俟ツコトト致度

以 上

内 閣

買入圖示



假定案

昭和十五年農林省所管

木炭需給調節歲入歲出豫定計算書各目明細書

炭 入

第一款 木炭需給調節收入 一〇三、四八二、二二五圓

第一項 木炭賣拂代 一〇一、二二〇、〇〇〇圓

目 十五年度豫定額 事項別

第一目 木炭賣拂代 一〇一、二二〇、〇〇〇圓

木炭ノ賣拂代

第二項 借入金 二一六、〇〇〇圓

第一目 借入金 二一六、〇〇〇圓

本會計ノ經費ニ充ツル爲要スル借入金

第三項 雜收入 一〇二、二二五圓

第一目 物品拂下代 一〇〇、〇〇〇圓

種別	員數	單價	金額	備考
粉炭	五〇〇〇〇	〇二〇〇	一〇〇、〇〇〇圓	

第二目 違約金	一〇〇	
木炭ノ賣買其ノ他ノ契約ニ係ル違約金		
第三目 辨償金	一〇〇	
木炭ノ保管輸送等ノ依託ニ係ル損害賠償金		
第四目 恩給法附金	一、九二五	
第五目 雜入	一〇〇	
過誤拂返納金其ノ他		

炭 出

第一款 木炭需給調節費 一〇三、一九一、四二四圓

第一項 俸給 一一三、三二八圓

目 十五年度豫定額 事項例

第一目 委任俸給 二一、三四〇圓 備考

官名 人員 一人 年額 金額

書記官 一三一、二〇〇 二、八六〇円 〇〇〇 十一箇月分

事務官 二二、八八〇 五、二八〇 〇〇〇 十一箇月分

技師 五二、八八〇 一三、二〇〇 〇〇〇 十一箇月分

第二目 判任俸給 七四、九四二

屬 一五、九八五 一三、三四四 〇〇〇 十一箇月分

技手 六八、九八五 六一、三九八 〇〇〇 十一箇月分

第三目 賞與 一六〇、四六

第二項 事務費

二二二、二一四圓

第一目 備品費

四四〇〇〇

種別 金額

備考

器具機械

四〇〇〇〇〇

雜品

四〇〇〇〇〇

第二目 圖書及印刷費

一〇〇〇〇

圖書及雜誌

二二〇〇〇

製本費

三五〇〇〇

印刷費

九七二五〇〇〇

第三目 筆紙墨文具

一〇〇〇〇

諸用紙

九一二〇〇〇

筆墨印肉類

三三〇〇〇

文具類

三五〇〇〇

第八目 雇員給				第九目 傭人料				第十目 被服費					
人員	一人年額	金額	備考	名稱	人員	一人給額	金額	備考	名稱	員數	單價	金額	備考
30	650000	178750000	十一箇月分	給仕	15	180000	24750000		現場監督服	95組	4000	3800000	
				小使	15	380000	52250000		小使服	15	120000	1800000	
				臨時人夫	5500	1000	71500000		給仕靴料	15人	50000	750000	
				合計				合計					
				17875				635					

第十一目 雜費

三五五八八八

種別

金額

額

備考

諸謝金

二六〇〇〇

宿直賄料

三一七八〇〇〇

舟車馬類
備上貨

一四三〇〇〇〇

道路給水費

二六〇〇〇〇

事務所借料

二八六〇〇〇〇

諸器具借料

二六〇〇〇〇

翻譯及謄寫料

一三〇〇〇〇

諸雜費

一三〇〇〇〇

第三項 事業費

一〇一、八〇三、五〇〇圓

第一目 木炭買上代金

九〇、七七〇、〇〇〇

木炭需給調節ノ爲買上ニ要スル費用

三三、五八八

第二目 借庫料		一一三〇〇〇
木炭需給調節上買上ニ係ル木炭格納ニ供スル借庫費用		
第三目 保管料		二五七九二〇〇
木炭需給調節上買上ニ係ル木炭ノ保管依託ニ要スル費用		
第四目 荷役費		一三三〇〇〇〇
木炭需給調節上買上ニ係ル木炭ノ荷役ニ要スル費用		
第五目 運搬費		五七一五〇〇〇
木炭需給調節上買上ニ係ル木炭ノ運搬ニ要スル費用		
第六目 手入費		九五六〇〇〇
木炭需給調節上買上ニ係ル木炭ノ手入ニ要スル費用		
第七目 器具機檢費		二二〇〇〇〇
器具	一五四〇〇〇〇	
機檢	五〇〇〇〇〇	

第一目 木炭
 第二目 借庫料
 第三目 保管料
 第四目 荷役費
 第五目 運搬費
 第六目 手入費
 第七目 器具機檢費

種別	第十目 雜費	第九目 被服費				第八目 雜品給
		雜役夫服	倉手服	定夫服	名稱員數	
金	一〇九三〇〇	二五二	五二	三九	組	給
		八〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	單價	
額	一〇九三〇〇	二〇一六〇〇	七八〇〇	四二九〇〇	金額	一、六〇〇〇〇〇
		〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	額	
備考					備考	二〇六七七五
					備考	
種別	第十目 雜費	第九目 被服費				第八目 雜品給
		雜役夫給	倉手給	定夫給	名稱人員	
金	一〇九三〇〇	六五〇	五二	三九	人	給
		〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	一人給額	
額	一〇九三〇〇	三二七〇〇	四二、九〇〇	三二、一七五	金額	一、六〇〇〇〇〇
		〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	額	
備考					備考	二〇六七七五
					備考	
種別	第十目 雜費	第九目 被服費				第八目 雜品給
		雜役夫給	倉手給	定夫給	名稱人員	
金	一〇九三〇〇	六五〇	五二	三九	人	給
		〇〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	一人給額	
額	一〇九三〇〇	三二七〇〇	四二、九〇〇	三二、一七五	金額	一、六〇〇〇〇〇
		〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	額	
備考					備考	二〇六七七五
					備考	

假令

昭和十五年度農林省所管木炭需給調節歳入歳出豫定計算書

昭和十五年度歳入歳出豫定計算書説明

昭和十五年度木炭需給調節特別會計ノ

歳入豫定額ハ 一〇三、四八三、二二五 円

歳出豫定額ハ 一〇三、四八三、二二五

ナリ今茲ニ重要ナル事項ヲ説明スレバ左ノ如シ

歳入ノ部

一 木炭賣拂代

本年度ニ於ケル事業豫定計畫ニ基キ收入スル木炭賣拂見込金額壹億百

貳拾貳萬圓ヲ第一款ニ豫定セリ

二 借入金

翌年度へ持越ノ木炭アルニ因リ生スル歳入不足ヲ補フ爲ノ借入金貳百拾六萬圓ヲ第一款ニ豫定セリ

歳出ノ部

一木炭需給調節事業施行ニ要スル經費

本年度ニ於ケル事業ノ豫定計畫施行上木炭買上代金借庫料荷役費、運搬費、手入費、借入金利子及事業取扱ノ爲職員設置等ニ要スル經費壹億參百拾九萬千四百貳拾四圓ヲ第一款ニ豫定セリ

農林省所管 木炭需給調節

歳入

項	款	
	目	
第一款木炭需給調節收入	一〇三、四八三、二二五円	十五年度豫定額 備考

第一欸木炭需給調節費	項 目	歲 出	一 木炭賣拂代		二 借 入 金		三 雜 收 入	
			一 木炭賣拂代	一 借 入 金	一 物 品 拂 下 代	二 違 約 金	三 辨 償 金	四 恩 給 法 納 金
一〇三一九一四二四円	十五年度豫定額		一〇一、二二〇〇〇	三、一六〇〇〇	一〇〇、三二二五〇	一、九二五〇〇	一、〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇
	備 考							

一俸		二事務費	
給		費	
一	一	一	一
奏任俸給	二一三二八	備品費	四四〇〇〇
二	二	二	二
判任俸給	七四九四二	圖書及印刷費	一〇〇〇〇
三	三	三	三
賞與	一六〇四六	筆紙墨文具	一〇〇〇〇
		四	四
		消耗品	一五〇〇〇
		五	五
		通信運搬費	二〇〇〇〇
		六	六
		內國旅費	四三二六六
		七	七
		給與	一〇〇〇〇
		八	八
		雇員給	一七八七五
		九	九
		備人料	一四八五〇
		一〇	一〇
		被服費	六三五五

三事業費

四國債整理基金
特別會計繰入

一一	雜費	三五五八八
一	木炭買上代金	一〇一、八〇三、五〇〇
二	借庫料	九〇、七七〇、〇〇〇
三	保管料	一一、二〇〇、〇〇〇
四	荷役費	二、五七九、二〇〇
五	運搬費	一、三三〇、〇〇〇
六	手入費	五、七一五、〇〇〇
七	器具機械費	九、五六〇、〇〇〇
八	雜給	二、〇六七、七五〇
九	被服費	三、二二五、〇〇〇
一〇	雜費	一〇、九三〇、〇〇〇
		一、〇五三、七八二

歲出合計	第一豫備金	第二款豫備金	五諸支出金				
			一借入金 利子	一死亡 賜金	二官吏 療治料	三死傷 手當	四諸拂 戾金
一〇三、四八三、二二五	二九〇、八〇一	二九〇、八〇一	一〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
			一〇、五三、七八二				

假案

昭和十五年度農林所管

木炭需給統制歲入歲出豫定計算書目

昭和十五年度農林省所管木炭需給統制歲入歲出
豫定計算書說明

昭和十五年度木炭需給統制特別會計ノ

歲入豫定額ハ 一〇、三、四八二、二二五円

歲出豫定額ハ 一〇、三、四八二、二二五円

ナリ今茲ニ重要ナル事項ヲ說明スレバ尤ノ如シ

歲入ノ部

一 木炭賣拂代

本年度ニ於ケル木炭^(賣渡)數量ヲ屯億八千八百萬貫ト豫定
シ此ノ貫當賣渡價格平均五拾參錢八厘強ヲ豫算
セリ

二 借入金

翌年度持越木炭四百萬貫ヲ保有スル為生ズル歳

入不足ヲ補フ為金貳百拾六萬円ノ借入金ヲ豫算セリ

三 雜收入

粉炭五拾萬貫此ノ貫當賣渡價格貳拾^錢ヲ豫算セリ

歳出ノ部

一 木炭買上費

木炭需給統制上買上ヲ要スル毫億九千貳百萬貫ノ買上ヲ豫算セリ

二 借庫料

木炭需給統制上政府直接保管ノ為ニ要スル倉庫毫萬四千坪ノ八箇月分^{借入}ヲ豫算セリ

三 保管料

年度内保管委託延敷量ヲ六億四千四百八拾萬貫ト見込ミ此ノ保管料貫當一月四厘ヲ豫算セリ

四 荷役費、運搬費及手入費

年度内取扱実数 港億九千貳百萬貫ニ要スル荷役費貫
當七厘（翌年度持越四百萬貫ノ内産地貳百萬貫（拂出
荷役費貫當五厘）都市貳百萬貫（拂出荷役費貫一厘）
ヲ控除ス）都市入庫竝ニ産地出庫ニ要スル運搬費貫
當港銭、手入費貫當五厘及生産地方集積保管分九
千六百萬貫ノ賣渡出庫ニ要スル鉄道運賃貫當參銭
竝ニ山元ヨリ集積倉庫迄ノ運搬費貫當九銭一厘五
毛ノ港千萬貫分ヲ豫算セリ

五 借入金利子

本歳買上其ノ他諸般ノ經費ニシテ本會計ノ收入金ヲ
以テ支辨シ得ガル場合ハ一時借入金ニ依ルモノトシ
其ノ所要利子ヲ豫算セリ

農林省所管

木炭需而給統制

歲入

款

目

十五年度豫定額

備

考

項

第一款 木炭需而給統制收入

一〇三、四八三、三三五

一 木炭賣拂代

一 木炭賣拂代

一〇一、二二〇、〇〇〇

二 借入金

一 借入金

二一六〇、〇〇〇

三 雜收入

一 物品賣拂代

一〇〇、〇〇〇

二 違約金

一〇〇

三 辨償金

一〇〇

四 恩給法納金

一九二五

歲入		歲出	項款	目	備考
五雜入	1000		第一款	木炭需給統制費	
合計	103483.25				
				十五年度豫定額	
			一俸給	102941.82	
				一一三六六二	
				二一三四〇	
				七四九四二	
				一七三八〇	
				二二六一四	
				四四〇〇〇	
				一〇〇〇〇	
				一〇〇〇〇	
				二事務費	
				一備品費	
				二圖書及印刷費	
				三筆紙墨文具	

項	款	目	十五年度豫定額	備	考
三事業費					
	四	消耗品	一五、〇〇〇		
	五	通信運搬費	二〇、〇〇〇		
	六	內國旅費	四三、二六六		
	七	給與	一〇、〇〇〇		
	八	雇員給	一七、八七五		
	九	備人料	一四、八五〇		
	〇	被服費	六三五		
	二	雜費	三五、五八八		
			一〇、一八〇三五〇		
	一	木炭買上費	九〇、七七〇、〇〇〇		
	二	借庫料	一一、二〇〇〇		
	三	保管料	二、五七九、二〇〇		

四 國債整理基金特別會計錄入

五 諸支出金

四 荷役費	一三三〇、〇〇〇
五 運搬費	五七一五、〇〇〇
六 手入費	九五六、〇〇〇
七 雜費	一〇九、三〇〇
八 器具破滅費	二二、〇〇〇
九 雜給	二一〇、〇〇〇
一 借入金利子	八〇、二八二六
二 死亡賜金	六〇〇
三 官吏療台料	三〇〇
四 死傷手當	一〇〇〇
五 償還金	一〇〇

項 目	十五年度豫定額	備 考
五諸拂戻金	五〇四	
第二款 豫備金	五四〇、四二三	
第一款 豫備金	五四〇、四二三	
歲出合計	一〇三、四八二、三三五	

農林省所管 林炭需給調節 昭和十五年年度豫算額調

事項	金額	備考
歲入 木炭需給調節收入 木炭賣拂代	一〇三、四八二、二二五 一〇三、三八〇、〇〇〇	國有林生產木炭 一〇、〇〇〇、〇〇〇 <small>(貫)</small> 其 他 一八、〇〇〇、〇〇〇 計 一九二、〇〇〇、〇〇〇 粉炭賣拂代等 五、三八四、〇〇〇 〇、三三六、〇〇〇
歲出 木炭需給調節費	一〇三、九一四、二二四	
俸給 事務費	一一、三三八	十一月分、經費 書記官一、事務官二、技師五、屬一五、技手三八
事業費 費	二二、二一四	
木炭買上代金 國有林生產木炭 其他 (產地) (消費地)	一〇、〇〇〇、〇〇〇 <small>(貫)</small> 一、三三五、〇〇〇 <small>(貫)</small> 八、六〇〇、〇〇〇 九、九〇〇、〇〇〇	九〇、七七〇、〇〇〇 二、三五〇、〇〇〇 四〇、四二〇、〇〇〇 四八、〇〇〇、〇〇〇
總計	一〇三、三二五	

事	項	金額	備
國債整理基金特別會計繰入	諸支出金	一〇五三七八二	一時借入金、利子(利率日歩九厘)
豫	備金	二九〇、八〇一	計 借庫料 保管料 荷役料 運搬費 手入費 其他
第一豫備金		二九〇、八〇一	一九二〇〇〇(貸) (貸) 四七三 九〇、七七〇 一一二〇 二、五七九 一、三三〇 五、七一五 九、五六〇 三、四一三 一〇、一八〇
合計		一〇三、四八二、二二五	本會計ニ据置運轉資本ヲ置キ其金額八百萬圓トシ一般會計ヨリ繰入ルモトス (木炭需給調節特別會計法才ニ條)

考

木炭需給調節特別會計法案

木炭需給調節特別會計法

第一條 木炭ノ需給ノ調節ノ爲政府ノ行フ木炭ノ買入、賣渡又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別會計ヲ設置ス

第二條 本會計ニ据置運轉資本ヲ置キ其ノ金額ハ百萬圓トシ一般會計ヨリ繰入ルルモノトス

第三條 本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得但シ其ノ金額ハ七百萬圓ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四條 本會計ニ於テハ木炭ノ賣渡代金、借入金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ木炭ノ買入代金、木炭ノ買入賣渡貯藏及運搬ニ關スル諸費、借入金ノ償還金及利息、一時借入金ノ利子其ノ他諸費ヲ以テ其ノ歳出トス

第五條 本會計ノ歳出額ハ其ノ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ得ズ

第六條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ餘裕アルトキハ之ヲ大藏省預金部ニ預入ルベシ

第七條 本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル一時借入金ハ當該年度内ニ之ヲ返還スベシ

第八條 本會計ニ於テ決算上過剩ヲ生ジタルトキハ之ヲ翌年度ノ歳入ニ繰入ルベシ

第九條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會ニ提出スベシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法ハ昭和十五年度ヨリ之ヲ施行ス

木炭需給調節特別會計法案理由書

木炭ノ需給ノ調節ノ爲政府ノ行フ木炭ノ買入、賣渡又ハ貯藏ニ關スル一切ノ歳入歳出ハ之ヲ一般會計ト區分シ特別ノ會計ヲ設置スルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

大甲八四

昭和十五年三月二十八日

內閣書記官長

內閣書記官

昭和十五年三月二十八日
昭和十五年三月三十日

內閣總理大臣

齋藤

法制局長官

齋藤

外務大臣

齋藤

陸軍大臣

齋藤

文部大臣

齋藤

遞信大臣

厚生大臣

齋藤

內務大臣

齋藤

海軍大臣

齋藤

農林大臣

齋藤

鐵道大臣

齋藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

齋藤

商工大臣

齋藤

拓務大臣

齋藤

別紙大藏拓務兩大臣請議昭和十三年

法律第二十三號第一條ノ規定ニ依リ

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及

去司

三

樺太廳ノ各特別會計ヨリ臨時軍事費
特別會計ニ繰入ルベキ金額ヲ定ムルノ
件ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考
ス依テ請議ノ通閣議決定セラレ
可然ト認ム

勅令案

朕昭和十三年法律第二十三號第一條ノ
規定ニ依リ關東局、朝鮮總督府、臺
灣總督府及樺太廳ノ各特別會計
ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰

入ルベキ金額ヲ定ムルノ件ヲ裁可
シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十五年三月二十九日

内閣總理大臣

大藏大臣

拓務大臣

勅令第百二十七號

呈案ノ通

法制局

主任者主計局調査課長前田大藏書記官

1936
三月三十日

昭和十三年法律第二十三號第一條ノ規定ニ依リ關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太廳ノ各特別會計ヨリ臨時軍事費特別會計ニ繰入ルベキ金額ヲ定ムル爲勅令ヲ制定スルノ必要アリ
仍テ別紙勅令案竝ニ理由書ヲ具シ茲ニ閣議ヲ請フ

昭和十五年三月六日

大藏大臣 櫻 内 幸

拓務大臣 小 磯 國

内閣總理大臣 米 内 光 政 殿



大藏省

大甲八四

規格 B. 5 (14. 2. 内田納)

本件ハ三月三十日迄ニ公布
相成度

法制局
内閣官房總務課
御 中